

認知症になっても自分らしく暮らせるまちづくり・ひとづくり・つながりづくり…37 稲田秀樹

かまくら認知症ネットワーク代表理事  
(株)さくらコミュニティーケアサービス代表

言葉に対する感性が素敵なのがときどきいる。認知症が進行してボキャブラリーが少なくなってきたり、発する言葉が楽しさを帯びていたり、きらめいていたりする。吉田とめ子さん(73歳)もそんな人だった。会話の端々ときどきキラッと光る言葉があったのを、書き留めてみると1篇の詩になっていた。それからはデイサービスに通いながら詩を書くことが日課になった。スタッフが書いた下書きのメモを見ながら、とめ子さんが清書をした。日常を題材にした楽しい詩がいくつもできていった。しかし2020年の夏頃になるとアルツハイマー型認知症の進行とともに、ひらがなの文字も書けなくなってきた。病気の診断から7年が経過していた。



ご家族と入選を祝う吉田とめ子さん

詩の作品作りにも支障が出てきた頃、とめ子さんが詩を書く合間に描いていた小さな模様の断片のようなスケッチがたくさんあることに気が付いた。それは印象派のマチスという画家が好んで描いていたタペストリー(布地に印刷された模様のような作品)に似ていた。私はとめ子さんにマチスの画集見せると「とっても素敵ね!」と気に入ってくれた。それで二人でマチスのような絵を描こうという話になったのだ。それからのとめ子さんは絵画制作に熱中するようになった。認知症が進行して、一人でトイレに行くこともできなくなっていたが、デイサービスで作品制作に取り組むうちに、絵を描くことが自分の「仕事」のように思えるようになっていった。2021年5月には吉田とめ子さんの色鉛筆画の作品「春の私」をアマチュア絵描きの登竜門とも言われる上野の森美術館の公募展「日本の自然を描く展」に応募した。とめ子さんには画歴がなかったので、プロフィールには認知症の診断からの経緯を記して出品した。選考委員が一点一点の作品を吟味するその公募展で「春の私」は見事に入選を果たした。絵を描き始めて1年あまりの、2021年8月の出来事である。

石井金次郎さん(82歳)は会社を退職すると写真に熱中するようになった。石井金次郎さんが写真の世界に踏み入るとほどなく優れた作品をいくつも発表するようになった。石井さんは毎日自宅裏の丘に登ってそこから見える富士山をファインダーに収めた。「富士は時に遠く、ときにぐっと近くに見えるんです」と金次郎さんが話してくれたことがある。実際に金次郎さんの写真の中の富士は四季折々に多様な姿を見せている。富士山の他にも四季折々の鎌倉の風物や世界の自然と向き合う日々が続く。ご自宅に何と金次郎さんの部屋にはたくさんの写真や賞状が雑然と置かれていた。

2018年になると石井金次郎さんは言葉が出にくくなり、カメラの手入れができなくなる。カメラの操作もわからなくなって病院を受診したところ、前頭側頭葉変性症の診断を受けた。それでも金次郎さんは日々裏山から富士山を撮ることを止めなかった。富士山を撮るために、カメラを簡易な一眼レフに変えた。望遠レンズもついていないそのカメラでは以前のような迫力のある写真を撮ることは難しかったが、そのカメラが石井さんの新たな相棒となった。デイサービスでは施設の記録写真係を担当するようになった。またカメラが変わっても自宅裏の丘に登り毎日そこから富士山を眺めた。

2020年2月には、そんな石井金次郎さんの作品をもっと多くの人に見てもらおうと展示会の企画の話が持ち上がった。企画会議を重ねている最中に新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が発令されて展示会の企画は当面保留せざるを得なくなった。その代わりに金次郎さんの撮影した写真をフォトブックにまとめる作業に取り掛かった。フォトブックであれば少ない数でも印刷でき編集も簡易だった。フォトブック「富士を撮る」はハンドバックに簡単に収まるサイズに仕上げ、欲しい方に実費でお渡しすることにした。今年7月には白内障の手術も済ませた金次郎さんは、今になって俄然脂がのってきた感じがする。\*吉田とめ子さんと石井金次郎さんの2人は10月17日開催の10周年記念オンライン講演会に登壇しご自身の思いを話されます。



デイの記録写真を撮る金次郎さん

認知症カフェ開催日程

本人カフェ(大船) 11月14日 0467-47-6685 今泉  
台オレンジカフェ 10月2日(土) 0467-40-4210  
おしゃべりカフェだんだん(西鎌倉)第3日曜0467-39-1525

みんなで笑って楽しく脳若返り(苗田)オンライン開催0467-31-8787  
梶原山オレンジカフェ 休止中 0467-46-8233  
由比ヶ浜オレンジカフェ 休止中 0467-39-6087  
オレンジカフェ(常盤) 休止中 0467-43-1165

活動予定

- 本人カフェ 10月24日(日)9:15~10:00 大船フラワーセンター
- かまくら散歩 10月24日(日)10:00~11:30 大船フラワーセンター \*若年性認知症ほっとサロンを兼ねて実施
- オンライン家族勉強会 10月13日(水)19:30~20:45 ZOOM 開催
- 設立10周年記念オンライン講演会「認知症について認知症の人から学ぼう! 鎌倉」10月17日(日)10:00~16:00 ZOOM 開催

★入会ご希望の方...TEL0467-47-6685、FAX0467-39-5490

当会の運営は会員の年会費及び寄付金で成り立っています!

1. 個人正会員 3000円
2. 個人、団体賛助会員 2000円(一口以上)
3. 寄付金(寄付のご支援をお願いいたします)

郵便振込口座 00240-8-140587  
口座名 一般社団法人 かまくら認知症ネットワーク



一般社団法人



52号

かまくら認知症ネットワーク

- 会報52号
- 2021年9月1日発行
- 編集発行人 一般社団法人かまくら認知症ネットワーク 〒247-0053 鎌倉市今泉台 4-5-16
- TEL0467-47-6685
- HP <http://kamakuraninchishou.com/>
- 郵便振替 00240-8-140587
- 編集責任者 稲田秀樹



認知症の本人らがフラワーセンターを楽しく散策、本人カフェも開催しました!

7月11日(日)第44回かまくら散歩「夏に咲く花を見て歩こう」を開催しました。今年度初めての試みとして、かまくら散歩が始まる前の45分間、認知症のご本人7名が参加して「本人カフェ」が行われました。本人カフェが行われている間、ご家族同士で自己紹介、その後意見交換をされていました。

10時になると第44回「かまくら散歩」が集合場所のフラワーカフェからスタートしました。若年性認知症ほっとサロンも同時開催となりました。かまくら散歩には、認知症ご本人12名を含む、ご家族、サポーター、スタッフら総勢30名が参加しました。園内には紫色のサルビアや風船のようなキキョウのつぼみがたくさん育っていて、会話が弾んでいました。この日はハスの花が見頃でした。ハスの茎や葉にはパイプの葉脈があって、そこに水を

通すとシャワーのように水が吹き出てきます。その様子が面白く、手で吹き出す水に触れたりして涼を取りました。

今回は近藤英男さんの体調が良かったので、木陰でヒデ2のサプライズミニライブをしました。ほぼ10か月ぶりのぶっつけ本番でした。「若者たち」「ふるさと」「真夜中のギター」「見上げてごらん夜の星を」と続きました。皆さん一緒に口ずさみ、初参加の認知症男性の足もリズムを取っていました。近藤さんは譜面も見ずうまくハーモニータッチ、稲田秀樹さんのおしゃべりではダジャレも健在でした。歌い終わり拍手をたくさんもらって「やればできるな」と自信を取り戻され、帰り道「音楽があるのはいいよ」とつぶやかれた近藤さん。病気が進行してもまだまだ音楽を楽しまれ、また私たちに聴かせてくださいねと、ご本人と奥様に、心のなかで言葉をかけました。(TN)

認知症の本人カフェ開催しました!

7月11日(日)、9:15から10:00まで大船フラワーセンター内のフラワーカフェのオープンスペースにて、当会主催の認知症の「本人カフェ」が開催されました。当日は7名のご本人が2つのテーブルに分かれて意見を交わしました。「本人カフェ」は認知症の当事者同士がつどい、自由に話しをしてもらおう場所をつくる目的で、2018年4月から大船のカフェ茶らで開催されていましたが、コロナ禍で安全に集える状況を確認するのが難しいことなどから実施を見送ってきました。この度、屋外で入場時に検温と手指消毒を行うこと、会話中はマスクを着用することなどの感染防止対策を徹底することで再開することができました。参加されたご本人さんたちは、他の方の話に耳を傾けながら、自分と共通点のある話題には積極的に発言していました。二つのテーブルとも笑顔が絶えることがなく、あっという間の45分間となりました。(WY)



### 「春の花であふれるフラワーセンターをのんびり歩いてきました」 支援部会

5月9日(日)、大船フラワーセンターで第43回かまくら散歩「初夏のフラワーセンターを歩く」を開催しました。当日は認知症ご本人 6 名を含む、ご家族・サポーター・スタッフら計 18 名が集いました。今年度は若年性認知症ほっとサロンもこの場所で同時に開催することになり、介護の専門職も一緒に散歩を楽しみました。散歩中、歩きながら気軽に相談に応じる様子も見られました。また、歩く認知症カフェとして注目されているこの活動を取り上げたいと、EテレのハートネットTVの取材も入りました。

この日は母の日とあって、東京に住む息子さんがお母様を伴っての初めて参加される方もありました。お母様が無理なく楽しめるように、偶然出会ったように装ってという演出もあったのですが、お花好きのお母様はとても喜ばれて、スタッフと会話しながら園内を歩いて

いました。コロナ禍の中ということもあり、密にならないように一方通行のコースを作って歩きました。バラ園では色々な種類のバラが色とりどりに咲き誇っていました。ご夫婦で写真を撮ったり、どのバラが好きだとか話したり、参加者は思い思いに楽しんでおられました。シャクナゲ園も満開で「ここはいつ来てもいいよ」とご本人の感想が聞かれました。

ひとしきり歩いたところで藤棚の下のベンチに座って休憩を取りました。稲田代表から12年前に認知症ご本人のアイデアで始まった「かまくら散歩」について説明がありました。「かまくら散歩」は、認知症のご本人と支援者が、認知症による閉じこもり防止を目的に始まりました。今では毎回 10名前後のご本人が参加する行事になっています。この日の様子は 5 月 16 日の E テレ・ハートネットTVで放送されました。(TN)



### 日本認知症ケア学会の読売認知症ケア賞・実践ケア賞を受賞しました！

一般社団法人かまくら認知症ネットワークが、第 17 回日本認知症ケア学会の読売認知症ケア賞・実践ケア賞を受賞しました。この賞は、日本認知症ケア学会が、より質の高い認知症ケアの実現のために設けているもので、10年以上にわたる継続した社会参加支援の実績や、当事者家族支援を多角的に展開している点などが評価されての受賞となりました。これを機に、認知症の地域支援のさらなる充実へ向けて、今後も努力を継続していきたいと思っています。 代表理事 稲田秀樹



### 「第2回認知症家族勉強会」研修部会 ZOOM オンライン開催

8月11日(水)19:30~30:45まで、ZOOM によるオンライン開催で、「第2回認知症家族勉強会」を行いました。認知症の方の家族本人8名の参加がありました。

勉強会では、認知症の基礎的な理解を深めてもらいながら、実際に介護をされているご家族から話も伺いながら、それを参加者で共有し共感することを大切にしています。参加者には、ご自分と同じような体験をしている家族が他にもいることを知っていただき、孤立感を解消することができれば、気持ちの上でもずいぶん楽になるものです。また同じ介護をしている仲間ができるのは、普段の介護生活の励みにもなります。

今回は、ご家族の話のほかに、介護家族が書いた小説「全員悪人」村井理子著を朗読しながら、認知症のご本人

の感じている世界を想像してみるワークを行いました。「全員悪人」は妄想や幻視、記憶障害のある主人公の視点から書かれた一人称の小説です。認知症の人から見た世界をこれでもかというくらいに描写して読ませてくれます。著者の村井理子さんは認知症のお母様の体験世界を余すところなく伝えていきます。文章もとても読みやすいので皆さんにお勧めしました。(IN)



### 地域の動き 「9月21日の世界アルツハイマーデーに大船観音がライトアップされます！」 大船観音寺

9月21日は世界アルツハイマーデーとして、毎年、認知症啓発の行事が行われています。今年もこの日、鎌倉市内では、認知症を応援するカラーであるオレンジ色のものを身につけたり、認知症を学ぶの講座や講演会が開催されたりします。鎌倉市内では大船観音寺の協力を得て、認知症になっても安心して暮らせる地域社会を実現する願いを込めて、大船観音がオレンジ色にライトアップされます。このような取り組みは、今年も神奈川県だけでなく、日本全国で行われます。認知症の偏見をなくし、認知症の人や家族、関係者が気持ちよく暮らせる時が来るように願っております。(IN)



### 地域の動き 「カフェだんだんで認知症の本人写真展開催！」 鎌倉市 西鎌倉

令和3年7月18日(日)、湘南モノレール西鎌倉駅近くの中国茶専門店茶風に於いて、「おしゃべりカフェだんだん」が開催されました。当日は猛暑にも関わらず、認知症当事者の方やご家族様など13名が参加しました。カフェでは、地元在住の認知症当事者の石井金次郎氏のフォトブック「富士を撮る」の写真展を開催しました。ご自宅近くから本格的なカメラで撮った富士山の写真を鑑賞しました。写真集が出来るまでの経緯をフォトブックの制作を手掛けたケアサロンさくらの管理者の稲田秀樹さんが説明、ご本人様も質問に応える形でお話いただきました。石井金次郎さんは前頭側頭型認知症による失語症があり、断片を紡ぐようにとつとつと語る言葉へ

の一つ一つから写真にける思いが伝わってきました。会の後半では一枚の絵画を観ながら参加者が自由に発言する「対話型アートプログラム」を体験しました。「おしゃべりカフェだんだん」はどなたでも参加できる、地域の談話室です。コロナ対策は十分に施して開催していますので、安心してご参加ください。(WY)

